

メバチ 中西部太平洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*

管理・関係機関

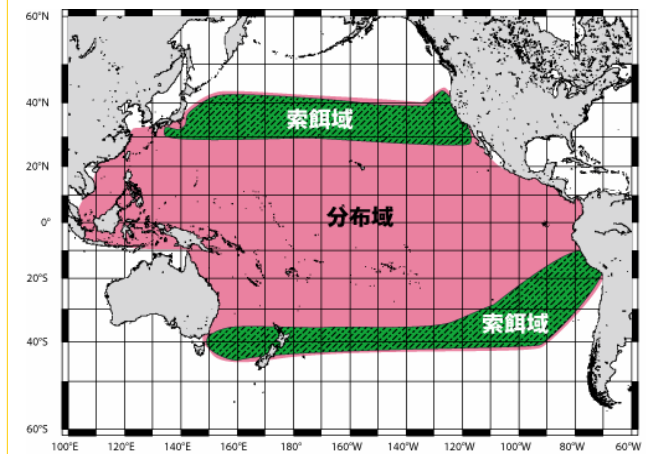
中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)

最近一年間の動き

本資源の漁獲量は徐々に増加し、1997年以降10万トンを超え、2005年の漁獲量は16.3万トンで過去最高であった。はえなわの漁獲は8.1万トン、まき網は41,502トンで、過去最大となっている。竿釣りが2~4千トン、その他(インドネシア・フィリピン)が1.5万トンであった。

生物学的特性

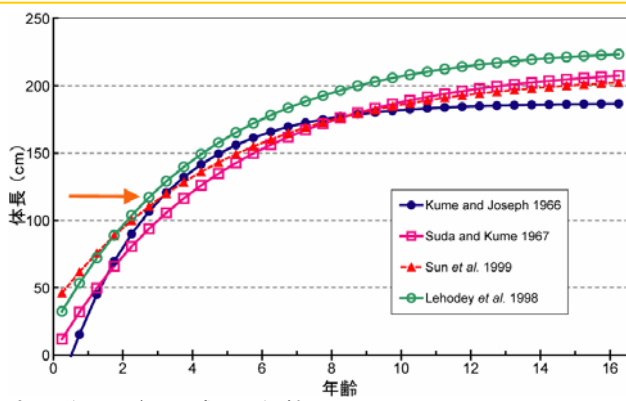
- 寿命: 10~15歳
- 成熟開始年齢: 3歳
- 産卵期・産卵場: 周年・表面水温24℃以上の海域
- 索餌場: 温帯域
- 食性: 魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者: まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



太平洋のメバチの分布域と索餌域(斜点線部)

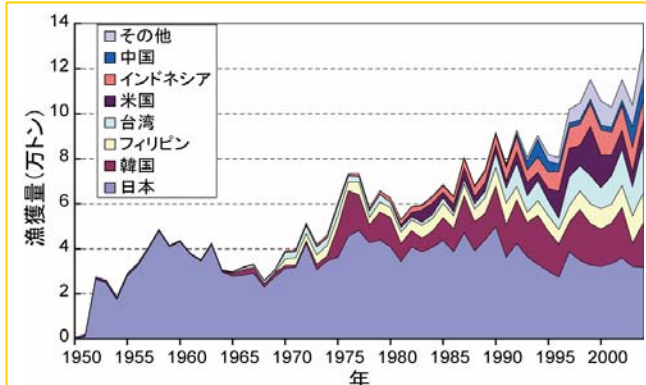
利用・用途

刺身や缶詰原料



太平洋のメバチの成長と年齢

矢印(尾叉長120cm)でほぼ全ての個体が成熟



中西部太平洋のメバチの国別漁獲

漁業の特徴

本種の漁業はやや深い水深帯(100~250 m)をねらうはえ縄と、表層付近をねらうまき網・竿釣りが主である。従来、はえ縄の漁獲が安定的に大半を占め、主に100 cm以上の中・大型魚を漁獲してきた。一方、表層では30~100 cm未満の小型魚を漁獲する。1990年代からのFADsを用いたまき網操業で小型魚の漁獲が急増し、大きく資源にインパクトを与えている。はえ縄漁獲物の多くは我が国市場向けの刺身用だが、まき網漁獲物は缶詰原料となる。はえ縄漁業国は日本・台湾・韓国・中国等であり、主要なまき網漁業国は米国・台湾・フィリピン・日本などである。

漁獲の動向

WCPFC 条約海域の 2005 年のメバチの総漁獲量は過去最高の 16.3 万トンであり、同年の全太平洋のメバチの漁獲の 69%を占めた。本資源の漁獲の 52%がはえ縄、26%がまき網、残りが竿釣りおよびインドネシア・フィリピンの地場漁業とその他による。近年、フィリピン・インドネシアが各々約 1 万トンに漁獲量を増大させた。

資源状態

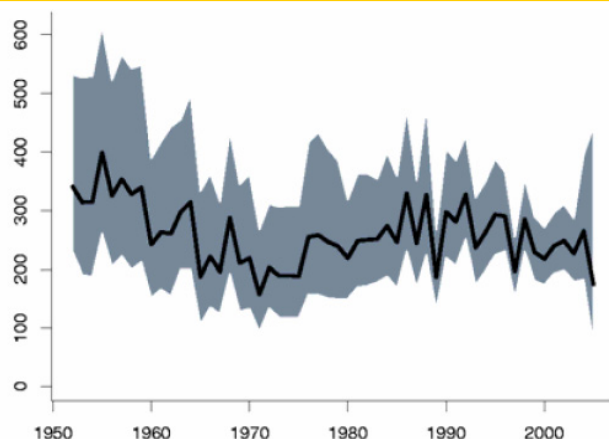
2001～2004 年の平均努力量に基づく F はほぼ MSY かそれをやや上回る状況にあって、現在の資源量は MSY の資源量をまだ上回っている(過剰漁獲であるが乱獲状態ではない)と結論付けられた。この状況は最近の加入がかなり高いことに起因している。

管理方策

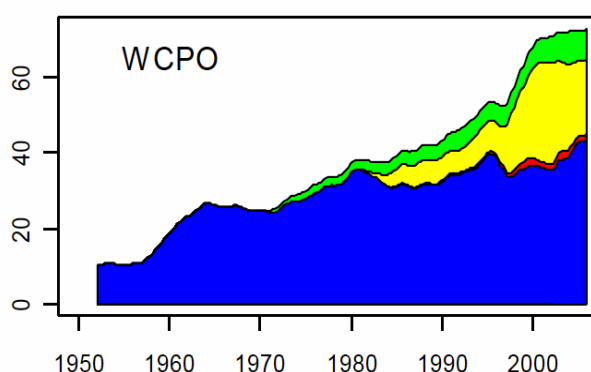
- 北緯 20 度以北、南緯 20 度以南の国のメバチ・キハダを対象とする漁船(はえ縄を除く)の総漁獲能力を近年レベルに抑制する。
- 北緯 20 度～南緯 20 度の公海におけるまき網漁業の漁獲努力量を近年レベルに抑制する。
- まき網漁業による小型魚の投棄を防止するため、漁獲物の全量保持を推進する。
- はえ縄漁業については、2006 年から 3 年間で、漁獲量を近年レベルに抑制する昨年の決議を維持する。

資源評価まとめ

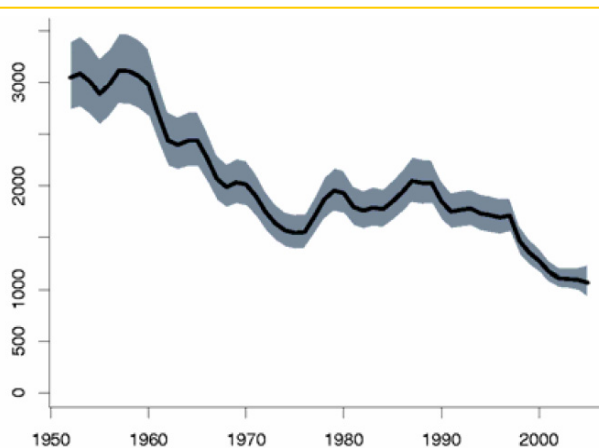
- WCPFC からの委託により、SPC(南太平洋委員会)の OFP(Oceanic Fisheries Programme)が実施
- 統合モデルである MULTIFAN-CL により評価
- 資源水準は中位で横ばい



MULTIFAN-CL による本資源の推定加入量(千トン)



MULTIFAN-CL による本資源への各種漁業の影響(下からはえ縄、まき網、フィリピン・インドネシア漁業)(千トン)



MULTIFAN-CL による本資源の推定資源量(千トン)

メバチ(中西部太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年)	10.6～15.7 万トン 平均:12.5 万トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年)	3.2～3.8 万トン 平均:3.6 万トン